

# 中央線変移規制の固定化試行実施について

現状



沿革 昭和54年 運用開始  
平成14年 機器更新  
平成30年 台風により故障  
令和 3年 機器更新基準年

- ① 交通量の変化  
R161バイパスや周辺施設の変化により交通量が減少  
S54年 約38,000台 → R4年 29,000台
- ② 分かりにくい交通規制  
全国の中央線変移システムは廃止傾向(交通量の減少)  
H12年 20都道県 59.0km → R3年 10都県 24.9km
- ③ 災害に弱い  
H30年 台風21号によりシステム故障(復旧に6か月)
- ④ 機器の更新基準年、維持費の増大  
R3に機器更新基準年を迎え、更新費用に約5億が必要  
維持費(保守、電気料、回線費)が年間900万円

6回の検討会を実施(滋賀県、大津市、警察)  
2回の交通流シミュレーションを実施

固定化



- ① 渋滞への影響  
交通流シミュレーション結果で、  
北進車線は渋滞長、旅行時間が改善  
南進車線は渋滞長、旅行時間が悪化するが影響は小
- ② 分かりやすく、災害に強い交通規制  
可変標識の固定による中央線の指定  
はみ出し追い越し禁止規制の中央線オレンジ色による明示
- ③ 費用対効果  
システム機器の更新不要、維持費不要

実施時期：令和6年1月～(日は未定)